

社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)レビューシート

団体名: 特定非営利活動法人野田川良い町づくりの会

訪問調査日: 2012年6月28日(木)

評価大項目(分類)	評価中項目	絶対評価コメント	達成率
I. 組織ミッション(社会的使命)と事業の推進	[1]組織ミッション(社会的使命)の確立	組織ミッションは定款やホームページ、公益活動ポータルサイト「きょうえん」等に示され、公開されている。非営利組織としての位置付けが定款・事業終了報告書・総会資料からも確認できる。組織ミッションを達成するための公益的な基幹事業として、障害者自立支援法・児童福祉法等の制度事業である「児童デイサービス事業(わんぱくクラブ)」「児童居宅介護事業(すてっぷ)」の等の実施状況が確認できる。	15/24 達成率 63%
	[2]組織ミッションと事業の策定	中・長期的な事業イメージは協議されている状況が伺えるが、文書化する等計画書としては策定されていない。単年度事業計画は、事務局会議・運営委員会で協議し、策定されている状況が確認できる。	
II. 組織と経営管理	[1]意志決定機関とガバナンス	年に2~3回程度開催される理事会や運営委員会および各事業ごとの会議体が機能しており、総会も定款に基づいて適宜適切に開催されている状況が確認できる。制度事業を行うため、さらに運営上必要となるコンプライアンスの把握や法人内への周知、行政研修への参加等の取組みが見受けられる。理事会において、人事・労務・財務等の分析が行われ、必要に応じて軌道修正が行われている。法人の経営環境は適切に把握・管理されており、法人監事による内部監査が行われている。	32/43 達成率 74%
	[2]適切な財務計画と執行・管理	「長期財政計画書」が策定されている。制度事業給付金の他、循環型社会の構築に係る事業収入やバザーによる収入等、多様に確保されている状況が見受けられる。納税等適切に行われている状況が確認できる。	
	[3]職員と労働環境	就業規則等必要な規定が作成されている。サービス管理責任者が、職員の労働環境を把握し、適切な勤務体制の構築に努めている。慰労会への補助等、法定福利厚生外の取組みが見受けられる。「パートタイム労働者就業規則」を策定し、職制の違いを明確にしている。法人として必要または理想とする人材像のイメージは、「わんぱくクラブ」療育に記載されている。	
III. 事務局の執行体制と管理	[1]組織・事務局体制の確立	法人本部事務局は、個人宅に設置しており、開設時間等は各制度事業ごとの事務局によって違いがある。全部事項証明書から法人の登記事項が確認でき、所轄庁への報告等、必要な手続行われている状況が見受けられる。組織として必要な手続も適切におこなわれている。	22/31 達成率 71%
	[2]会計全般	会計に関しては経理規定を作成し、その規定に則って運用されている。専任の会計担当者が会計に携わり処理等を行っている。	
	[3]事業を推進するための体制やルール	事業計画に基づいた制度事業等は積極的な事業の推進状況が見受けられるが、「セラミック竹炭事業」等、未実施の事業も事業報告書から見受けられる。各事業において状況の共有は図られているが、起案書等組織決裁ルールの設定は確認できない。各事業の事務局会議において、評価を行い、組織全体に共有が図られている状況を聞き取ることができる。	
IV. 社会資源の活用	[1]社会資源(企業/行政/市民など)の連携と活用	ボランティアの受入れについて、今後積極的に行いたいという姿勢が見受けられる。「農環境と食を考える会」や入浴施設・リフレかやの里との協働実績、与謝野町から「発達に課題のある中高生の長期休暇支援」の委託実績が確認できる。年に数回開催しているバザーには、たくさんの物品提供を得ている状況を聞き取ることができる。	10/16 達成率 63%
V. 情報の公開と社会的信頼	[1]情報の公開	法人の情報は、ホームページや公益活動ポータルサイト「きょうえん」で公開がなされている。ホームページの更新は、法人理事が行っている。月に1回「わんぱくクラブ通信」が発行されている。	16/18 達成率 89%
	[2]第三者による評価	京都府や与謝野町から制度事業実施施設として認可を受け、事業を行っている。日本財団からの車両贈呈や都福祉事業協会からの助成実績が確認できる。「わんぱくクラブ」の事業内容が京都新聞で取り上げられ掲載されている。	
VI. 組織のリスクマネジメントと社会的責任の追求	[1]組織のリスクマネジメント	重要書類およびデジタルデータの保管等は適切に管理されているが、管理規定の策定および規定に基づいた管理が今後の課題として見受けられる。ボランティア保険への加入や避難訓練が行われている。	8/18 達成率 44%
	[2]組織の社会的責任の追求	地域の子育て環境の向上のため、職員が多様な委員会に所属している。放置竹林の整備等環境保全活動がおこなわれている。	
【相対評価(セルフレビュー)／総括コメント】 当法人は、循環型の安全で安心して住める良い町にするために、必要と思える事を積極的・先進的に事業化しています。障害者自立支援法に基づいた制度事業や放置竹林の整備による森林の保全、地球温暖化対策などの環境対策を通じて、雇用を増やすよう取り組んでいます。子どもたちの五感を育むため、国の配置基準よりも多くの指導員を配置した療育内容は、高い評価を受けています。常勤、非常勤に関わらず、全職員対象に研修を行い、日々の反省会はもちろん、子ども達のケース会議などの中で、互いの指導の在り方を検討しながら、指導の質を高める努力をしています。運営全般に責任をもち、常時課題の把握に努め、必要な際には迅速に事務局会議を開く意識をそれぞれが持ち、事業所の最重要事項を集団的に議論・決定しています。他の職員や利用者に責任をもつ立場を確立し、会議の中では対等に議論しあう雰囲気があります。 学齢児童、中高生の毎日の放課後の活動は、以前より地域のニーズが高く、就学前の子ども達の定員がまもなくいっぱいになります。それ以上は受け入れることができないため、同様の事業をもう一つ立ち上げることが待たれるが、いずれにしても今の事業が安定し、余剰資金や職員を増やすことができる等の条件整備が必要になるので、なかなか困難側面もあります。 京都北部地域において、子どもの発達が気になると感じたときに気軽に相談し、支援が得られる場所が近くにあることで、子育ての不安や一人では解決できない困難を解決する助けとなり、また、発達に困難をもつ子どもたちが、早い時期に専門的な支援を得られることで、困難を乗り越えやすくなる環境を構築していきたいと考えています。 本法人は、療育教室「わんぱくクラブ」等の制度事業をはじめ、NPO法人の立ち上げ支援や運営の相談も受ける他、京都府の事業委託や与謝野町の行政運営にも参加をして、共同の町づくりを進められています。「必要なことは、すぐにやる」という姿勢は、与謝野町における有効な社会関係資本として機能している状況が伺えます。しかし、法人運営や経理業務は、特定の個人に負担がかかっている傾向にあり、持続可能な法人運営を目指すことが今後の課題として見受けられます。今後も多様な人材の育成に取り組まれることを期待し、本社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)において認証しました。			103/150 総合達成率 69%

